

(1)評価基準に沿った評価	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
(2)記述評価						
・日常の長期管理が十分に行われていない現状が見てとれる結果である。 ・医師の関与がよくわからない→ホームドクター、クリニック医へのガイドラインに基づいた標準治療の教育・講習が必要と思われた。 ・肺機能のデータがわからない。 ・高校生のアンコントロールの内容の分析が必要。 ・今後の介入研究が望まれる。 ・新しいバイオマーカーとしてのネオプテリンとビオプテリンについては、FeNOとの相関は有意にみられるが、バラつきをみると慎重に位置付ける(利用価値を含めて)ことが必要だと考えられる。 ・システム全体によるアウトカムの評価が必要である。 ・単なる検査代行ではなく、喘息児の治療へのどのような貢献を目指すのか、その明確な方向性が見えない。 ・システムの構築はよいとしても、その効果についてさらに詳細な評価が必要と思われる。 ・全体としてはJPACの軽度改善が認められたが、1例ずつの分析はどうか。治療のステップダウンなどについても患者ごとの評価も期待したい。 ・ぜん息ドックというシステムが構築された。ネーミングもユニークであり、今後の普及が期待される。 ・小児ぜん息患者の行政的な支援のモデル構築に関する非常に重要な取り組みである。 ・医療機関、教育機関、行政機関の連携を円滑に進めるための制度的、技術的問題等をさらに整理して、このモデルを社会実装する場合の課題とそれを克服するための具体的なメニューを示すことが重要であると考えられる。						